

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	カトマンズ盆地で地震が発生しても、人的な被害が想定以下に抑えられる。
(2) 事業内容	活動 1. 住民参加型キャンペーンの準備 ① キャンペーンの目的、運営に関するボランティアスタッフ研修 区の災害管理委員会（以下、CDMC）の女性メンバーのボランティアスタッフを対象に、事業内容の共有と家具の転倒防止策などの説明、また地震についての認識レベルを把握するための戸別訪問の実施にあたりオリエンテーションを行った。戸別訪問では、当初予定していた地震被害に関する基礎情報の共有に加え、4月25日に発生したネパール大地震という状況変化に合わせて事業の方向修正が必要であることを確認するための現状把握を行うこととした。 ② 住民への準備研修 CDMC の女性メンバー12名のボランティアスタッフを動員し、カトマンズ市の2区とラリトプールの2区に住む合計250世帯の女性を対象に個別訪問を実施（8月9日～16日）。家具の転倒防止など地震被害に関する基礎情報を共有し、また、地震発生後の認識レベルの把握を行った。 さらに、地域の女性グループを対象（ACP、Mahagthi などフェアトレード団体の生産者）とした地震防災ワークショップとして、カトマンズ市とラリトプール市に住む女性52名を対象にワークショップを実施した（8月13日、14日）。 ③ 伝えるべきメッセージの設定 本申請事業開始前の調査結果をもとに、「スラチット・サザオット（ネパール語で安全な配置、飾り付けという意味）」などのメッセージを中心に防災、あるいは発災時に具体的にとるべき行動をわかりやすく伝える素材を準備することを検討していたが、地震後の個別訪問を通じた状況把握をもとに、メッセージを変更する必要はないことを確認した。パートナー団体 NSET の知見も合わせて検討した結果、テレビ、食器棚、ガスシリンダーの3点に重点を置いて広報素材の作成を行なうこととした。これら3点は、家庭内で一般的な家具であり、かつ、安全度を考慮されずに設置された場合の危険度が高いと判断されたためである。 活動 2. A 層を対象とした活動 ① 日本の経験共有ワークショップ 8月26日、関係者が本事業に対する理解を深めることを目的として、東日本大震災の際に経験したこと、知見などを共有した。これには市の地震局局員、CDMC メンバー、区の事務官、フェアトレード団体の代表者、合計24名が参加した。 ② 地震防災に関連する行政機関や NGO 等への訪問 事業の実施にあたり、カトマンズ市とラリトプール市を訪れ、

	目的や事業内容を説明し、合意が得られた。また、市行政とのコーディネーションによって事業対象区の CDMC を訪問し、ボランティアをコーディネートするなどの協力が得られることを確認した。 活動 4. C 層を対象とした活動 ④ 女性のお祭り (Teej) の日やネパール地震防災デー等のイベントへの参加 キャンペーンの実施を Teej (9 月 16 日) を挟む 1 カ月間、集中で行うことにしていたが、地震発生後、お祭り事態が自粛傾向にあることや、1 月の「ネパール地震防災の日」にも人々の関心が高いことが予想されるため、キャンペーンを 9 月から 1 月の間に分散して実施することとした。 助成のお祭り (Teej) では、女性たちが各自歌を作り、それを皆の前で歌う習慣がある、本事業では地震防災をトピックとした歌を作り、Teej 祭りでそれを女性たちに共有するための準備を行った。
(3) 達成された効果	ネパール大地震の影響により事業開始が大幅に遅れたことにより、現時点での効果は限定的であるが、以下のような成果があり、今後の活動に向けての準備が進んでいる。 活動 1. 住民参加型キャンペーンの準備 - ボランティアスタッフに対する事業内容の共有とオリエンテーションで、女性たちには家具の転倒防止についてあまり知識がないが、自分たちで実践できる身近な防災に関する興味があることがわかった。 - CDMC の女性による積極的なボランティア参加が得られた戸別訪問では、250 世帯への聞き取りを実施し、ニーズなどの現状把握が進み、また同時に家具の転倒防止などの情報共有も行った。またカトマンズ市とラリトプール市で各 1 回ずつ、合計 2 回防災に関するワークショップを実施し、女性 52 名が参加した。この戸別訪問とワークショップにより、地震に対する防災の一つの方法として、家具の転倒防止策を講じる必要性があることについて、住民がほとんど認識していないことがわかった。また、建築基準などのハード面についても、あまり情報を持っていないことも明らかとなった。 準備活動を通して判明したこれらの結果は、効果的なキャンペーンの組み立てに有用な情報となった。 活動 2. A 層を対象とした活動 - カトマンズ市、ラリトプール市、さらに対象の 3 区を訪問。また日本の経験ワークショップでは行政や地域の団体から 24 名が参加し、行政やコミュニティ・リーダーの理解や協力が得られた。

	活動 4. C 層を対象とした活動 日本の経験ワークショップを実施した様子がテレビで放映され、YouTube にもアップロードされた。 番組名 : Surakshit Samudaya Episode - 41 https://www.youtube.com/watch?v=Iwvb3rgFibY
(4) 今後の見通し	地震発生により事業開始が遅れ、また、お祭りの季節だが地震後の自粛ムードが広がるなど、社会状況が変化している。本事業計画当初は、女性のお祭りである Teej でのキャンペーン実施を検討していたが、この時期に集中しての大規模な実施は難しいと判断し、実施時期を 9 月から 1 月の間に分散して行うこととした。こうした多少の変更は必要であるが、事業内容については大きな軌道修正の必要はないと判断した。 なお、ネパール大地震を受けて、住民や行政において地震への関心が高まっており、今後の活動の進捗及び成果の達成にはプラスの方向に働くものと考えられる。